

## 平成28年度 鶴岡市郷土資料館運営委員会 会議録

- 日 時 平成28年10月6日 午前10時から
- 会 場 鶴岡市立図書館本館会議室
- 出席委員 阿部博行委員 犬塚幹士委員 後藤義治委員 佐々木勝夫委員  
前田光彦委員 三浦 健委員 渡部 幸委員
- 欠席委員 斎藤和久委員
- 職 員 館 長：佐藤 巖 図書専門員：齋藤美枝子  
図書専門員：今野 章 社会教育課主幹：佐藤尚子
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 0人

1. 開会
2. 館長あいさつ
3. 委員長・副委員長あいさつ
4. 報告・協議

**委 員**：寄贈資料の石原莞爾関係資料の満州国要人から贈られた「啄質繡章」（たくしつしゅうしょう）とは、どういうものか。

**副委員長**：要人から石原へ感謝の意を記した色紙の折帳である。以前から、この資料の存在はあきらかになっており、現物は立派なものだ。

**委 員**：参考相談について。郷土関係がほとんどだと思うが、先祖のルーツが知りたいとか、かなり専門的な質問があると思われる。そういった専門的な質問について、担当職員が週休などで不在だった日は、どのように対応しているか。

**事務局**：職員のシフトとして、専門的な質問に答えられる職員が不在にならないように組んでいるし、それでもわからない場合は、こちらから連絡すると伝えている。研究者の調査では、大概は前もって依頼が来るので、資料を事前に準備しておくが、たまに突

然来られる研究者もいるので、そういった場合は後日連絡するなどの対応をしている。

**委員：**専門的な職員が長くいることもできないと思うので、そういった専門的な職員の確保を考えていかないと負担が大きくなると思われる。

**館長：**職員課に強く要望しているところです。古文書を読めるということでは、市職員の中にもいることはあるようだが、郷土史についての知識や興味関心と古文書が読めることは別の問題でもあるので、職員課にはそうした点を配慮してもらって、職員の配置を強く希望しているところである。

**委員長：**S Lの文書目録だが、字が小さくてわかりづらい。分類もしているが、史料を捜している人は題名と年代を並べてもらうだけでいいようだ。とにかく、捜している人が探しやすいように、分類分けにしなくとも番号順でもっと大きい文字で目録を打ち出してもらいたい。

**事務局：**現在S L資料は、約5000点に上っている。目録については、エクセルで入力しているが、やはり情報を盛り込みすぎると、プリントアウトした際、文字が小さくなってしまう。工夫して見やすいように仕立てたい。現在、S L資料に限らず、エクセルで入力した史料目録に収められている史料については、カウンターのパソコンでキーワードを入力すれば、検索できるようになっている。

**委員：**史料の収蔵について、先程、家庭学院にあった史料が、現在、小堅小学校に移転したと説明があった。不便になったと思う。何か探しものがあつた場合、小堅小まで行かなければならない。菅野代分校にも一部の史料はあるわけで、早く図書館に併設した使いやすい収蔵庫が造られればこの問題は解決すると思われる。新しく建設される予定はないのか。

**館長：**ヒアリング等で、毎年市長にも話をしているところだ。とはいえ、市の事業の優先的なこともあり、なかなか進まないのが現状である。なるべく近くに仮置き場所を確保できるよう、その手法を考えていきたい。あとは持っていくものをどうするか。とはいえ、やはり古文書を持ち込むことは避けたいので、例えば寄贈いただいた本、雑誌類等を持って行くなど、全体的な配置構成の中で考えていきたい。

**委員長：**建物の問題は二十年来なので、まずはよろしくお願ひしたい。

**館長：**所蔵場所と建物の話は毎年のことだが、市長にも説明しながら次のステップに進めるようにしていきたい。

**委員：**提案ですが、今度図書館を建てることになったら、三角じゃなく、外見にこだわらない四角でいいから頑丈で、大き目で収蔵庫にも余裕のある建物をお願いしたい。使うことのないベランダなどは不要である。

**館長：**酒田市は分かれているが、鶴岡の場合は、郷土資料館と図書館は一体の方がいいのではないかと感じている。

**委員長：**他のところに資料を見に行くと、例えば秋田県立図書館は図書館と文書館が併存していて、大きい建物を半分ずつ利用して、大変便利だった。そういった施設を参考

にするといい。

**委員長**：史料のコピーサービスについて、今後とも継続してもらいたい。

**委員**：米沢の新しい図書館に行った時、新聞のマイクロフィルムのプリントアウトは1枚50円で利用しづらい感じがした。その一方、複写資料のコピーは1枚10円だった。また、指定管理者制度もあり、領収書の発行がその場でできず、後日郵送されてきた。こういう面でも、ちょっと利用しづらいと感じた。ガードすることも必要だが、オープンにしていくことも必要だと思う。

**委員長**：遠方から来た人たちは、致道館・人物資料館を無料で公開しているのはすごいと言っていた。それだけ多くの人に見て欲しいという姿勢だと思う。そういうことからコピー代も今まで通り10円をお願いしたい。

**館長**：毎年、年度末にこの年に地元の方が出版した本を展示している。この展示については、今後とも継続していきたい。また、玄関前で毎月ごとに小展示をしているが、各分館の方でも体制を整え、地元スポットが当たるような展示を考えていきたい。

**委員長**：展示で抜けているのが女性と子どもではないか。女性中心、子ども中心の展示はあまり見られないようだ。たいてい年寄向けになっている。新しい層の開拓が必要ではないか。

**委員**：以前も話したが、山形県立博物館では資料を購入する予算がない。寄託・寄贈されるのを待っている状況である。この資料館では、予算措置があるので、今後とも現状維持をお願いしたい。地元にある史料は、関係団体と連携しながら、散逸しないよう努めてもらいたい。

**委員長**：複写件数は例年に比べてどういう状況か。

**事務局**：例年並みである。最近では史料については、撮影していく方が増えてきているので、撮影件数は増えている。参考相談の件数も例年並みとなっている。今後は、これまでのレファレンスの内容を検討し、利用者の参考になるようなレファレンス冊子を提供していきたい。

**委員長**：来年のこの委員会の資料には、主な相談例と列挙してもらいたい。

**委員**：今年は集落史みたいなものをつくりたいという相談はあったか。

**事務局**：去年のこの委員会の中で、コミュニティ推進課の補助金を利用した集落史の制作という話題が出た。春先に、ある地区から集落史をつくりたいので、誰か手伝ってくれる人はいないかと相談があったが、最近聞いたところ、その話は立ち消えたようだ。

**委員**：旧櫛引町・旧藤島町と旧余目町では補助金を出していたので、立派な集落史を作ることができた。一方、旧朝日村には集落史はほとんどない。また、集落史をつくるにしても、金がない、資料がない、時間がない、人手がない、やる人がいない、中心になってやる人がいなくなっている。ある集落では、若い人がいなくて年寄だけになっていて、このままでは集落があったことすら、忘れられていく状況にきている。そういう状況なので、今のうちに何かの形で残していくべきではないかと思われる。鶴岡市の現状

と何か資料館としてできることはないのか、話題にしてもらいたいと思う。

**委員長**：今日の話で汲み取れるものは汲み取っていただき、来年あたりは「ようやく建設になります」とか良い報告があることを期待する。